

TSMC最先端技術流出事件の教訓：他社技術の「混入」を防ぐ多層的防御戦略

脅威の変質：「インバウンド型」技術混入のリスク



インバウンド型技術混入 (コンタミネーション)

転職者や顧客網を通じ、意図せず他社の機密を自社開発プロセスに引き入れること。



司法判断による厳罰化

台湾国家安全法の初適用により、個人への長期実刑と法人への巨額罰金が確定。



改正不正競争防止法による「使用の推定」

転職者が前職の機密を持ち込めば、自動的に「使用した」と法律上推定される。

TSMC事件における主要被告への峻烈な司法判断

主犯
(元TSMC/TEL社員)



有関係刑
10年

国家核心技术の不正取得・要求

実行犯
(元TSMC社員)



有関係刑
6年

国家核心技术の擅奪・提供

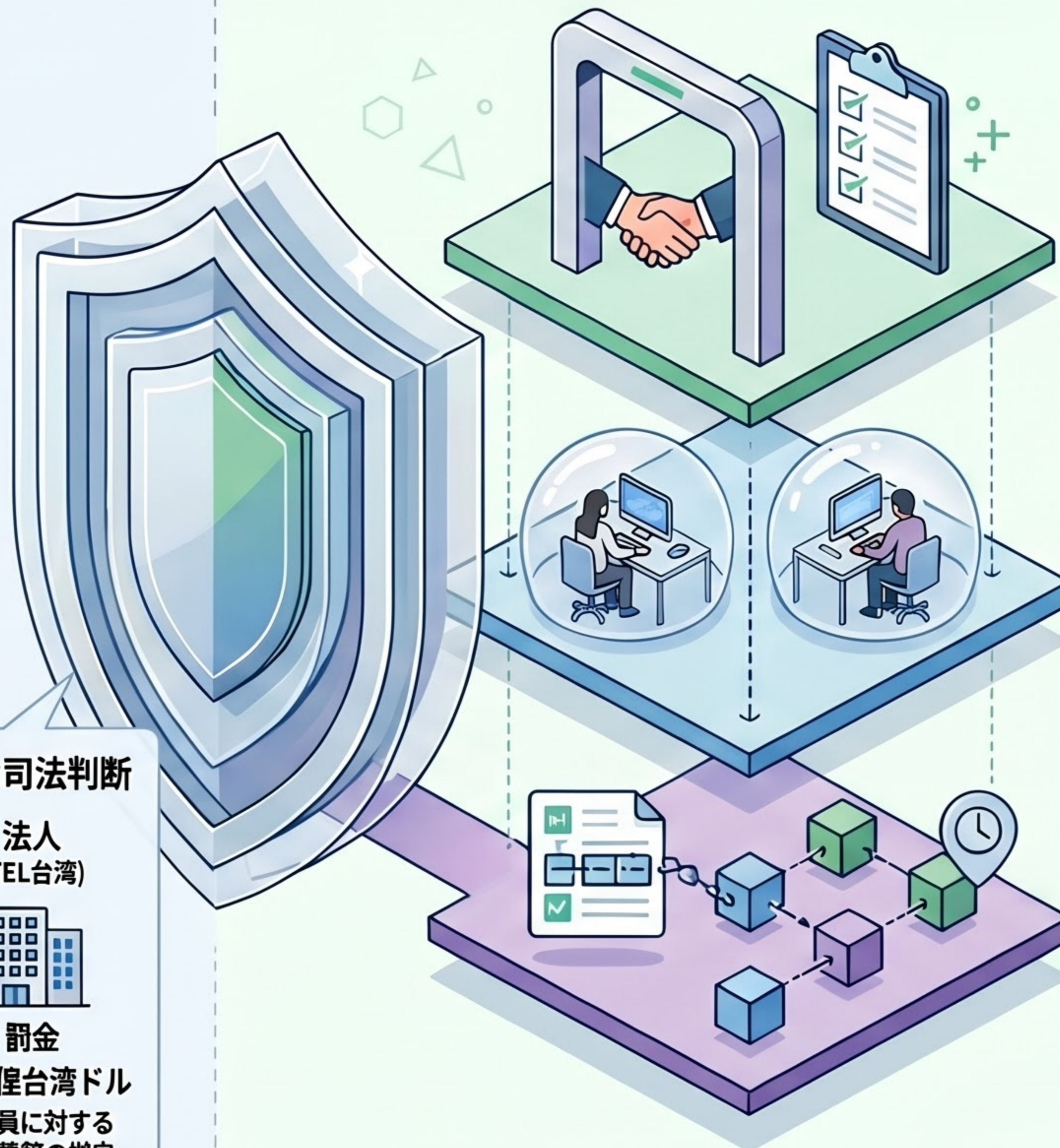
法人
(TEL台湾)



罰金
1.5億台湾ドル

従業員に対する監督義務の懈怠

技術混入を防ぐ「多層的防御プログラム」



人事フェーズ：
ゲートキーピングの高度化
採用時に前職データの「無混入・
消去」を具体的に表明保証（誓
約）させる。

技術フェーズ：
クリーンルーム開発
転職者を「仕様設計」に限定し、
「実装開発」から物理・組織的に
隔離する。

ガバナンス：
独自開発の立証
(タイムスタンプ)
全開発ログに電子タイムスタ
ンプを付与し、独自開発であるこ
とを客観的に証明。